

地域課題研究開発部門

著者	石田 和子, 坪倉 繁美, 高? 智子, 藤川 あや, 岡村 典子
雑誌名	看護研究交流センター活動報告書
巻	平成23年度
ページ	26-35
発行年	2012-04
URL	http://hdl.handle.net/10631/1079

地域課題研究開発部門

石田和子, 坪倉繁美, 高柳智子, 藤川あや, 岡村典子
新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域課題研究開発部門

I. 活動概要

1. 上越地域看護研究発表会の開催

上越地域の看護職の連携を図る目的で, 新潟県立看護大学看護研究交流センターと新潟県上越地域振興局健康福祉環境部の共催で開催され, 156名の参加者であった。平成23年度は第1・第2ホールにて行われ, 示説発表を行わず口頭発表とした。

平成22年度に引き続き上越地域の各病院や地域に所属する看護職員が臨床の場で取り組んできた研究発表に対して活発な意見や質問がされ「上越地域の看護の実践を知ろう」というテーマの目的を達成することができた。

1) 発表プログラム

日時:平成23年10月11日(火) 場所:新潟県立看護大学(第1ホール)

(1) 第1群(口演) 座長 中島美鈴(新潟県立柿崎病院)

- ① 腰椎術後患者の排便に対する腹部温罨法の効果
高橋久美子(新潟労災病院)
- ② 呼吸器装着ALS患者の外出への取り組み
望月友美(県立妙高病院)
- ③ 外来がん化学療法を受ける患者への栄養状態の改善をめざして
野口みゆき(上越地域医療センター病院)
- ④ サイレントアスピレーションによる発熱を繰り返す患者への看護介入
～口腔ケアからアプローチを試みて～
石田淳子(けいなん総合病院)
- ⑤ 高齢者の内服自己管理を試みて
村山理恵(上越総合病院)

(2) 第2群(口演) 座長 藤川あや(新潟県立看護大学)

- ⑥ 呼吸教室参加者の健康関連QOLの変化に関する調査
～在宅酸素療法患者の活動及び心理面への支援に焦点をあてて～
藤巻ゆかり(県立中央病院)
- ⑦ 慢性呼吸不全患者友の会“まつかぜ友の会”立ち上げ報告
福井恵理子(県立柿崎病院)
- ⑧ 上越管内における結核発生動向の現状と課題
富井美穂(上越地域振興局健康福祉環境部)

(3) 第3群(口演) 座長 松浦富士子(独立行政法人国立病院機構さいがた病院)

- ⑨ アルコール依存症治療の取り組みと近年の動向
諏訪貞徳(三交病院)

- ⑩ 「一人暮らしがしたい」と希望した A 氏の事例
～退院促進事業を利用して～
武田百合（高田西城病院）
- ⑪ 精神科患者の暴力が看護者に及ぼす精神的影響と対処行動について
金田廣子（川室記念病院）
- ⑫ 医療観察法病棟に対する看護職のイメージ
～SD法を使用した調査結果より～
内藤奈美子（さいがた病院）

2) 上越地域看護研究発表会実行委員会の活動

上越地域振興局健康福祉環境部、新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究開発部門（以下大学とする）が実施主体となり、上越地域の病院、保健所、市役所等の看護職員による実行委員会を編成、運営した。企画実行委員会は、4回（反省会、次年度計画を含む）開催し（平成23年7月6日、9月7日、10月31日、12月13日）看護研究発表会実施に向けて、各病院・市町村などの状況を考慮して、テーマや演題募集について検討を重ねた。

【平成23年度上越地域看護研究発表会第1回実行委員会】

(1) 第1回実行委員会：平成23年7月6日（水）

議題：看護研究発表会の企画について

目的は昨年同様に「看護研究の共有と看護ネットワークを強化し看護の質の向上と地域ケア体制の向上を図る」とし、福祉施設などの看護職員に対して発表会への参加を推奨することを今年度は追加した。その中で大学の役割として、研究をまとめる際のサポートと必要時に他の大学教員をつなぐことが挙げられた。テーマは、昨年同様に、「上越地域の看護の実践を知ろう」に決定した。

実施日時、演題募集などの日程は、10月中旬の平日とし看護大学会場の空き状況により決めることとした。平成23年10月11日18時30分から決定した。演題募集締め切りは、平成23年9月2日とした。応募演題数については制限せず、発表時間、質疑応答の時間を調整することで応募者全員が口演発表することとした。上越地域看護研究発表会演題募集要項を作成した。抄録規定として「A4 1枚」、「字数」、「ポイント数」を明記することとした。倫理的配慮については、新潟県看護協会の倫理規定を募集要項とともに配布することとした。研究報告だけでなく、実践報告の発表も募集することとした。

(2) 第2回実行委員会：平成23年9月7日（水）

議題：看護研究発表会の実施について

プログラム編成は、12演題が提出され1群成人看護3題、老年看護2題、2群地域看護3題、3群精神看護3題の構成となった。発表形式は、発表時間6分とし群ごとに質疑時間10分を設けることとした。休憩時間は1群の後に10分間とした。司会、座長を決めた。発表会当日の役割は、昨年資料、実施をもとに委員の集合時間は17時30分とし座長との打ち合

わせは18時からとした。また、当日の委員の役割分担を行った。

抄録査読については、当大学の部門委員で内容を確認し保健所へ返し、保健所から発表者へ修正依頼をすることが確認された。倫理的配慮を中心に査読を行い抄録の作成を進めた。大学の役割はプログラム・掲示物等・必要物品の準備をすることを決定した。保健所の役割はポスター作製・実行委員会の役割分担表作成、当日派遣依頼公文書の作成と発送に決定し、上越地域看護研究発表会開催に向けて大学と保健所で協力して準備を進めるための検討を重ねた。

(3) 第3回実行委員会：平成23年10月31日（月）

議題：看護研究発表会の反省・評価

① アンケート結果（資料あり）

アンケートの結果について、説明があった。その中で、広報について「福祉関係にはメールやFAXでの連絡のみだった。また、病院関係に関しては、看護部長宛てに発表会のチラシを送ったが、広報の方法に関しては伝えていなかったのもう少し積極的に動けばよかったと反省している」との報告があった。

② 発表内容

発表内容に関して、「ケアの改善に役立てていきたい」との意見がある一方で、「研究として意義ある内容を」との意見もあった。このことに関して、幾つか意見が交わされた。「この発表会の趣旨は、実践内容の発表であることから、それを表題等で謳った方がいいのではないか」、また「今後は、倫理的配慮など抄録執筆時の留意点などを盛り込んでいった方がいい」との意見があった。「各施設では、この発表会でエントリーした研究に対して、事前にどう対応しているのか」といった質問に対して、実行委員から「院内発表したものに、担当病棟の師長や看護部長が確認・指導したのちに応募している」、「院外で発表したもの、あるいはする予定のものを発表用にまとめて応募している」との発言があった。

③ 抄録について

書式が統一されていないことに関して意見が出され、今後は統一していくこととなった。また、発表時間が限られるため、抄録の枚数を増やし内容を盛り込めるようにしたらどうかとの意見があったが、各施設の院内発表では抄録を一枚にしていることから、“更なる手直しが必要となり発表者の負担になる”との意見があり、従来通り一枚で継続することとなった。

④ 発表者からの意見

発表者から、「発表前に、該当のパワーポイントを表示してくれるなど操作する担当者があるとよかった」、「パワーポイントの枚数制限があったが、もう少し増やせるといい」といった意見があったことが、実行委員から伝えられた。

⑤ 発表時間について

質疑応答の時間が短く、もっと発表者の取り組みを聞きたかったとの意見が参加者からあったことが、実行委員から伝えられた。発表時間等も含め、来年度の開催について続いて検討が行われた。

(4) 第4回実行委員会：平成23年12月13日（火）

議題：来年度の看護研究発表会

① 表会の企画・内容について

〈会場・演題募集〉

- ・アンケートの結果「発表時間が短い」という意見が多くあるため、2場で同時に発表を行い、より多くの演題数と発表時間を確保する。
- ・現在は病院中心に演題募集を行っているが、今後訪問看護ステーションや福祉施設の看護職に裾野を広げ演題募集をする必要がある。
- ・参加者を集めるためには、発表演題数を多くすることが必要である。

〈発表内容〉

- ・発表内容について「より研究的な発表を望む」という意見が聞かれたが、当初の目的であった「実践の共有」や、「研究」と限定した時の演題数の減少を考慮すると、現状の実践報告を含む発表内容が妥当である。
- ・発表会を重ねながら、発表内容のレベルアップを図っていく方向で発表会を企画する必要がある。
- ・発表形式（口演・示説）は演題が出された時点で内容から判断することとなった。

② 実施日時について

第1希望：9月29日（土）9時～12時

第2希望：10月13日（土）9時～12時

1) 広報活動

上越地域研究発表会の広報活動は、以下のように実施した。

- (1) 保健所が主体となり、ポスター、チラシ、発表会通知文を作成し上越地域の病院、保健所、市役所、看護大学などに配布した。
- (2) 発表会の様子が上越かわらばんに掲載された。（2011年10月6日号）
- (3) 発表会の様子を新潟県立看護大学看護研究交流センターHPに掲載した。
- (4) 発表会の様子を新潟県立看護大学広報誌「ポルティコの広場（2011年12月号）」に掲載した。

昨年同様に広報活動を実施し、上越市の病院に研究発表をするように依頼を行い、多くの上越地域の看護職の参加を図って来た。地理的な問題、勤務上の問題などがあり、開催時間などの変更を検討する必要がある。次年度は、土曜日の午前中に開催するなど検討を行う。

2. 平成24年度 地域課題研究の申請状況

新潟県内の保健・医療・福祉に携わる看護職を対象に公募した地域の看護実践での研究課題について8件の応募があった。（公募期間：平成23年11月28日(月)～平成24年2月6日(月)17時まで）

〈活動内容〉

1) 公募要領の作成

公募要領, 研究計画書, 研究計画書記入要領, 研究選定基準, 研究組織変更届を作成し活用した.

2) 広報活動

新潟県内の保健・医療・福祉関係(約 500 か所)に公募要領を郵送するとともに, 新潟県立看護大学看護研究センターHP に掲載し地域課題研究公募の広報活動を実施した.

3) 内定通知の発送

選考委員を選定し, 3月下旬に研究代表者へ内定通知を発送する予定である.

3. 石川県立看護大学視察

本学看護研究交流センターで行っている地域課題研究事業が, 現状の形態で事業を始めてまだ 2 年目ということもあり, 手探りの状態であるため, 同じような事業を行っている石川県立看護大学附属地域ケア総合センターを視察した. なお, 石川県立看護大学は今年法人化した大学であり, 昨年度までは本学と同じように県の施設として運営していた大学である. 概要は以下のとおり.

1) 地域ケア総合センターのシステム

人材育成, 指導助言, 調査研究, 国際化促進, 施設開放の 5 つの事業を主に担っている. 人材育成事業として公開講座, 指導助言事業として検討会や勉強会, 国際化促進事業として JICA の研究委託や研修協力を行っている. 平成 24 年度以降は見直しを検討中. 予算は現在 700 万円ほどの規模で運営している.

2) 調査研究について

地域ケア総合センターの調査研究は, 推奨課題をセンター側から提示し, それに関する研究を学内の教員を代表者として募集する. 研究代表者は助手でも提示する課題の中には, 事前に県の健康福祉部から看護大学へ求める課題を提案してもらい, それを含める. その関係で研究代表者も含めて行政関係者で組織される研究組織もある. 助成金額は 1 件あたり 100 万円とし, 採択数は予算査定の範囲内で決定する. 例年, 1 件あたり 30~60 万円の要求がある. 選定委員会は学長, センター長等大学組織の幹部で構成する. 成果発表は 6 月に中間発表, 年度末に成果報告会を開催している. また, 調査研究の成果は事業報告書に掲載している. 支払いの手順は本学と同じで, 研究の主となるものは大学であるため, 備品の管理等で特に困ることはないとのこと.

3) 研究相談について

特に行っていないが, 県内病院等の依頼に応じて随時看護研究の指導を行っている.

4) 地域ケアセンター運営協議会等について

教員 10 名, 事務局長から成る運営委員会, 専任職員 1 名(県から出向・事務職員)で構成されている. 月 1 回, センター実施事業の企画・運営に関する協議を行う.

5) その他(看護大から当日質問した事項等)

公開講座の謝礼金は県の予算単価 6,200 円×時間で支払う. 5 時間分の 3 万 1 千円が上限.

県外から講師を呼ぶ場合は5時間分行ったこととし、3万1千円を支払っている。旅費は別途。

専門職向けの公開講座については看護協会で行っているものもあるため、それとの差別化を目指している。大学独自の知識提供の場として教員を核としたもので進めていきたい。

4. 平成23年度地域課題研究の申請状況

本年度は9件の研究課題の申請がありました。

申請者代表者	所属	研究テーマ
林 八重子	長岡中央訪問看護 ステーション	成人期のがん患者の訪問看護利用者に関する調査
清塚 美希	新潟県立津川病院	呼吸ケアに関連した在宅医療機器の介護職の取り扱いに関する実態調査
尾矢 博子	新潟県立中央病院	臨床実習指導者が捉えている学生理解の実態と今後の課題
永石 栄子	仁愛会新潟中央病院	C病院における看護研究における実態調査 ～看護研究の支援体制作りに向けて～
沼 紀子	仁愛会新潟中央病院	看護師の考える看護サービスの特徴
岡崎 園美	新潟厚生連羽茂病院	寝たきりの手指拘縮高齢者に対する茶袋ケア処置の有用性に関する研究
三浦 一二美	新潟厚生連 長岡中央総合病院	外来化学療法を受けている患者の体験している皮膚障害に対するストレスと対処行動に関する研究
古澤 弘美	新潟県立中央病院	県立A病院における在宅酸素療法の実施状況について（導入要因と導入後の指導状況）
小林 創	国立病院機構 さいがた病院	自死遺族が支援を求められるようになる導因

II. 平成23年度の評価と今後の展望

上越地域看護研究発表会については、前年同様に実施し、参加者は多く、臨床研究の内容も多岐にわたっていた。発表演題数が多くあり平日の時間外2時間程度の発表会では、ディスカッションが十分に行えず研究を深めることができない。次年度は土曜日午前で開催することを検討している。さらなる保健所と大学の役割に明確化、研究発表会の意義、会場設営、発表時間、発表形式などの課題を明確にし、来年度に反映させていきたい。同時に地域課題研究成果発表会を同日午後で開催し、地域に研究支援を大学が実施していることを周知させていきたい。

地域課題研究については、新潟県内の保健・医療・福祉の看護職から8件の応募があった。課題としては、公募期間（約3か月）あったが短いとの意見が聞かれたことから、来年度は地域の看護職が応募しやすい期間の設定として上越地域課題研究発表会に合わせて公募するなど検討し地域の看護職者の研究の取り組みを発展支援していきたい。

【資料】

上越地域看護研究発表会終了後のアンケート結果

回収数 107 枚 / 参加者数 156 人 回収率 68.6%

1 運営について

1) 会場の広さ

ちょうど良い	もっと広い会場が良い	もう少し狭い会場が良い
92 (86.0%)	0	13 (12.1%)

未記入 2

2) プレゼンテーション機器等の配置について

適切	改善必要
95 (88.8%)	10 (9.3%)

未記入 2

- ・ マイクを持たずに発表できたらよかった.
- ・ マイクはスタンドにした方がいい.
- ・ 発表者が両手を使えるようマイクスタンドの高さや置く位置を考えてほしい.
- ・ マイクをピンマイクにしたら、発表に集中できるのではないかな.
- ・ 前席の人の姿でスクリーンが見にくかった. スクリーンが高いか、座席が高いと良いと思う.
- ・ パワーポイントの扱いに不慣れな人もいるので、スタッフがページを開いて準備し閉じることをするか、事前に方法を教えておくと、もっとスムーズにできるのでは.
- ・ 後方中央ではスクリーンが見づらい.
- ・ パワーポイントの操作と発表者を別にした方がよいのではないかな.

3) 発表会の案内方法

とてもよい	よい	より工夫が必要
17 (15.9%)	79 (73.8%)	3 (2.8%)

未記入 8

- ・ 早めの案内を
- ・ カラーの案内がよい
- ・ より浸透するような PR 必要

2 発表について

1) 発表時間について

適切	改善・工夫が必要
86 (80.4%)	18 (16.8%)

未記入 3

- ・ もう少し長いほうがよい. (8~10 分)
- ・ 事前に 7 分とされていたのが、6 分に変更されたが、準備が大変なので変更しないでほしい.
- ・ 決められた発表時間を超過するものがあり、時間配分に考慮が必要.

2) 質疑応答の時間について

適切	改善・工夫が必要
85 (79.4%)	12 (11.2%)

未記入 10

- ・もう少し時間がほしい。(10~15分)
- ・まとめたの質問だと意見が出にくい。時間内に終わらせたい雰囲気を感じられた。
- ・もっと意見交換があるとよかった。
- ・研究内容の本質について、友好的に闊達な議論ができるよう期待している。

3 プログラム全体について

とてもよい	よい	より工夫が必要
18 (16.8%)	76 (71.0%)	7 (6.5%)

未記入 6

- ・今回のように発表数が多いときは示説発表でもよいのではないか。
- ・群の分類名を載せて欲しい。
- ・実践報告と研究を分けてはいかがか。
- ・看護実践発表会とした方が、内容にあっているのではないか。
- ・深さがなかった。データも古いものもあり残念だった。
- ・もう少し早く終わるとよい。

4 発表内容についての感想

- ・臨床現場での問題を取りあげてあり、興味深く聴いた。
- ・事例研究に関して、倫理的配慮について必ず記述してほしいと思う。
- ・全体的に見やすいスライドだったが、文字数が多いと目で追いつらい。また、明朝体は見づらい。
- ・各々の発表のパワーポイントが、工夫されており、枚数も適正でわかりやすく良かった。
- ・研究としては対象事例が少ないことが気になるが、看護ケアの工夫としては参考にできることが多いので、具体的な紹介があると、より参考にできると思う。
- ・患者の暴力についての考え方が病院(精神)によって大きいように思えた。働いている看護者への対応が影響しているのか。
- ・それぞれの病院でがんばって、実施していることを知ることができてよかった。
- ・いろいろな方面の発表があり、今後の研究課題の参考や、業務・ケアの改善につながる内容であり役立てていきたい。
- ・身近なところでの発表、興味のある内容があり、よかった。
- ・発表と抄録内容の差がありすぎて、なかなか理解するのが難しかった。もう少し解りやすくする工夫が必要かと思った。
- ・短時間で充実した内容であり良かった。

- ・ 日ごろの看護の振り返りができ、きちんとまとめられており、興味深い内容だった。
- ・ 非常に興味深い研究や新しい分野の研究が盛り込まれていて良かった。
- ・ とても勉強になった。
- ・ 一般病棟に勤務しているので、精神科に関することが知ることができ参考になった。
- ・ 皆様、苦勞してまとめている様子がわかる発表だった。
- ・ 研究と言うより、紹介の内容が多かった感がある。
- ・ 対照研究し、要因分析をより深くしていくことが必要。
- ・ 課題が何で、それについてどのように改善したかという内容の発表に期待したい。
今の内容では実態のデータをまとめたという程度のものであり、研究に対して質が低いと感じた。とおりにっぺんの報告会では魅力がない。全体にもっと深耕した内容を期待している。

5 全体を通して

- ・ 抄録の様式を統一した方がよい。
- ・ 抄録にページまたは番号を記すべき。
- ・ 抄録内容に不備あり。(アンケート数の明示、引用文献の未記載)
- ・ 事前に抄録を配布し、事前に目を通し、意見交換につなげる。
- ・ 各発表に対する質問がないことは残念。質問に答えることで発表内容にないが強く伝えたいことが聴く側もわかる。質疑応答時間はもう少し取ってほしい。
- ・ 発表をスムーズにするために、パワーポイントの立ち上げや、交換を発表者以外の人が行うとよいのでは。
- ・ マイクを持たなくてもよいように、マイクスタンド等の調整をしてほしい。
- ・ 1群は発表数が多かったので、群まとめでの質疑は効果的にならない。発表毎の質疑とするか、2群程度の2~3の研究でまとめでの質疑が限度ではないか。
- ・ 群ごとに前に座っていた方が質問時にすぐに答えられるのではないか。
- ・ 12題を口頭発表は無理があるのでは。
- ・ 三連休翌日の開催は業務のことを考えると難しかった。1~2日あけたほうが出席者も多かったと思う。
- ・ 発表の時間が短いので簡潔すぎるのではないか。資料も少ない。内容はとてもすばらしく、もっと聞きたい。
- ・ 地域の病院の特長を生かした事例が多く紹介されており、理解が少しでもできたことは発表会のテーマにかなっていると感じた。とても興味深く聴くことができた。
- ・ 地域での研究発表会、身近なテーマで参考になった。
- ・ 来年も楽しみにしている。
- ・ 時間が来ると予鈴がなるが、その後の発表者のあせりが見え、発表が聴きづらくなったように感じた。“チン”は1回でよいのでは。
- ・ 発表者の集合時間が平日 18:00 であると、日勤だった場合はぎりぎり間に合うかどうかであり、土曜日の午後などに計画してもらおうとよい。

- 平日夕方からではなく，土日の日中でもよいのでは．
- このような場が地域に開放されていることは素晴らしいと思う．残念ながら病院・医療関係者の範疇であり，井の中の蛙的な状況が否めない．仕事を持ちつつ，このような研究を行っていることは素晴らしい．一般参加者の目からは運営者も含めてもう少し他流試合をして，せっかくの研究を一步すすめていただきたい．